

EDIM'22 「Material | 教材」実施報告

村上 雄大[†]

1. 実施報告概要

1.1 開催概要

日時：2023.2.27（月）13:00-18:00

場所：青山学院大学 青山キャンパス 本多記念国際会議場

教育デザインと情報メディアを考えるシンポジウム2022では「Material | 変容」をテーマとして、教育の基となる「教材」に焦点を当てた。事前参加登録は98名、当日は63名の参加があった。

1.2 講演内容

1.2.1 『わくわくさんこと久保田雅人の工作』

わくわくさんこと久保田雅人氏による、NHK Eテレ「つくってあそぼ」の秘話と、子供たちを夢中にさせるコンテンツづくりやその秘訣について講演が行われた。講演の中では、来場者が実際に工作を行うという仕掛けが多く盛り込まれていた。

1.2.2 『VRを使った教育の課題とは何か』

青山学院大学附置情報メディアセンター 助手 中村修也先生より、VRを使った教育の現状、課題点について整理し、今後どうあるべきか、どのように発展していくのかについて講演が行われた。

1.2.3 『桃太郎電鉄 教育版 トークライブ』

小学校教諭 『桃太郎電鉄 教育版』エデュテインメントプロデューサー正頭英和先生と、コナミデジタルエンターテインメント シニアプロデューサー岡村憲明氏によるトークライブ形式で『桃太郎電鉄 教育版』誕生の経緯から、実際の生徒たちの反応、教育現場でのさまざまな活用アイデアについて講演が行われた。

1.2.4 『サービス・ラーニング実践者のレンズー「場」のコントロールからデザインへー』

青山学院大学シビックエンゲージメントセンター助

手秋元みどり先生の講演で、青山学院大学におけるサービス・ラーニングの事例をもとに、実践をつくり出していくプロセスにおいて求められる視点や要素についての紹介と、学生や地域社会の人々の参加とダイナミズムによって生み出され、変容し得る教育の「場」づくりについての講演が行われた。

1.2.5 考える時間（全体ディスカッション）

ヴァーチャルアバターに扮した中村修也先生による司会進行の元、登壇者全員による全体ディスカッションを行なった。全体ディスカッションのトークテーマは、シンポジウム公演中に来場者から集めた質問を元に行なった。

2. 総括

前年度までのオンライン開催では来場者数が大きく減ってしまっていたことから、今回は配信等はせず、リアル会場での開催のみで、来場者の呼び戻しを図ったが、実際には来場者の大幅な増員は叶わなかった。それは、このような類のイベントはオンラインでも参加できるという、認識が当然のようになってしまい、リアル会場に足を運ぶということへの距離が生まれてしまったからではないかと考える。今後、イベントを開催する運びとなった際は、リアル、オンライン両方で開催する必要があると考える。

3. 実行委員

森田 充(青山学院大学 国際マネジメント研究科 教授 青山学院大学附置情報メディアセンター 副所長)
村上 雄大 (青山学院大学附置情報メディアセンター)
中村 修也 (青山学院大学附置情報メディアセンター)
渡邊 夢良己 (青山学院大学附置情報メディアセンター)

[†] 青山学院大学附置情報メディアセンター